

# 春季総合コアプログラムが 開催されました

春季総合コアプログラムが、4月5日(土)T-1002で行われました。このプログラムは、総合的・学際的な感性・理解力の養成を目的として、春と秋の2回実施する講義です。院生はもちろん、専任教員も全員参加し、学際的テーマを設定して討論を行います。今回は、専任教員による研究発表1題と、博士後期課程3年次生の研究成果発表2題、そして博士前期課程2年次生の研究成果発表1題でした。

総合学術研究科 高倍 昭洋 教授

「総合学術研究科における私のこれまでの活動と今後について思うこと」

これまでのご自身の教育・研究活動を振り返るとともに、今後の夢を熱く語られました。名城に限らず、世の中の大学にとって、博士課程の充実が重要であることを強く指摘されました。



博士後期課程3年次生 井土 美恵子さん

「看護実践能力を育む看護教育」

文献研究、実地調査などを順調に済ませ、今後は患者安全教育の効果を質問紙調査で把握していく予定であることを報告されました。



博士後期課程3年次生 江里口 知己さん

「海洋生物体内の化学物質蓄積量の推定手法に関する研究」

ヒトが海産物を食したときの放射性物質のリスクを評価する生物蓄積モデルを開発し、東京湾での検証結果を報告されました。

博士前期課程2年次生 宮崎 達朗さん

「身体障がい者に対するスティグマに関する研究 -社会受容の観点から-」

身体障がい者は、健常者が身体障がい者に対してどのようなスティグマ※を持っているのか、これを社会受容の観点から検討すると報告されました。

※スティグマ

他者や社会集団からある属性を持った個人に対して押し付けられたネガティブなイメージ。



大学院生の研究成果発表に対しては、研究方法や結果の解釈について多くの質問や意見が出されました。これらを参考に、より良い論文に仕上げることが望まれます。